

## 1. 「ヌーディ」の家 お菓子作り&販売

寄付していただいたオープンを使って、クッキー作りを行っています。「クッキープロジェクト」と題して始まったこの活動は、日本からボランティアの方がお見えになり、子ども達に教えていただきました。エイズなどで影響を受けた子ども達が、将来自分で生きていく力を付けるための職業訓練も含めて行われています。活動はまず、子ども達が材料を買出しに行くことから始まります。子ども達は近所のお店に砂糖、卵などを買いに行きます。



ベーン、アルン、テンモ、ガン(左から、アルンは奨学生):  
混ぜるのがけっこう難しいな。



「ヌーディの家」特製クッキー(6個15円)  
お1つ、いかがですか?おいしいですよ。

クッキーが完成したら、その次は販売です。子ども達は、フエカオガム村を歩いて周り、クッキーを売りにいきます。「おいしいクッキーはいかがですか?」村の人たちは、子ども達が作ったクッキーを温かく迎えてくれます。

一人の男の子(6歳)は、父親をエイズで亡くし、母親も感染しています。母親の皮膚病なので、今は叔母と一緒に暮らしています。その子は、自分で作ったクッキーを食べてもらおうと、遠い母親の家まで歩いていきました。母親も息子が作ったクッキーを食べることができて、とてもうれしそうです。

クッキー作りは、まだ始まったばかりですが、今後も活動を広げていきます。

小麦粉をふるい、バターを混ぜ、砂糖・卵を入れて…。子ども達は、毎回どうやったら、もっとおいしくなるか試行錯誤を重ねながら、クッキーを作っています。オープンに入れて、待つこと約15分。おいしいような香りが、「ヌーディの家」中に広がります。近所の人たちも、集まってきます。

子ども達は、コストをかけず、またおいしく見えるようなクッキーの包装や、どのようにしたらより売れるかを話し合っています。



アン、ダム、プーペー、タイ(左から、アンは奨学生):  
「クッキーはいりませんか?」子ども達の声が村中に響きわたります。